

校長室から (N0. 13)

2 年生 学級会 聞き合うこと・分かり合うことを大切にして

私たちの国は、民主主義国家であり、議会を通して政策や法律が決まり、それに従って私たちは生活を営んでいます。平和や安心が享受できるのも、力ではなく、話し合いによって解決できる国だからではないでしょうか。

そのしくみを学校では、「学級会」として経験します。

先日、2 年生の学級会を参観することができました。

驚いたことに、2 年生とは思えないくらい、子供一人一人が、自分の意見をもって真剣に話し合いに臨んでいました。

議題は「『やさしい えがお まじめ 100 点の 2 年生』

(学級目標)になるためのパーティーでの遊びを決めよう」というものでした。



もちろん、どんな遊びをするかは、子供たちにとって楽しみであり、切実な問題です。話し合いが活発になるのも当然かもしれない。

しかし、それ以上に感心したのが、ドッジボールや宝さがし等といった「何をするか」ということよりも、「大勢でできるから…」「誰も泣かないでできるから…」「そこで協力したら笑顔になれるから…」というように、どうしてそうしたいのか、今の自分たちにとってどうしてそれをする必要があるのかを自分の言葉で語っていることでした。

信頼や共感できる仲間同士でなければ、自分の思いを主張することはできません。



2 年生の子供たちは、学級会というシナリオ通して、話し合う術を身に付けると同時に、相手の意見に価値を見出し、自分の主張とは違っていても聞き合うこと・分かり合うことを大切にしながら、共に生きる術を身に付けていっているのだらうと思いました。

学級会では、司会者も記録者も発言者たちも、いきいき、すでに笑顔いっぱい。

口を挟みたくてもぐっところえ、子供たちに話し合いを委ねた教師の姿勢もあっばれでした。

このような経験を積んだ子供たちが大人になって、よりよい社会を築いていってくれるに違いない。胸には目に見えないバッチが輝いているようでした。

